

「男女間における暴力に関する調査」報告書〈概要版〉

内閣府男女共同参画局

調査の概要

1 調査目的

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（以下、「配偶者暴力防止法」という。）第25条では、国及び地方公共団体は、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に資するため、調査研究の推進に努めるよう規定している。また、第2次男女共同参画基本計画では、女性に対する暴力についての確な施策を実施し、社会の問題意識を高めるため、定期的・継続的な実態把握の調査に努めることとしている。

これまで平成11年度、平成14年度に全国20歳以上の男女4,500人を対象に、無作為抽出によるアンケート調査を実施している。前回調査から3年後に当たる平成17年度には、これらの先行調査を踏まえつつ、昨今社会問題となっている新しい課題等も含め、国内の男女間における暴力の実態を把握する。

2 調査対象

- (1) 母集団 全国20歳以上の男女
- (2) 標本数 4,500人
- (3) 抽出法 層化二段無作為抽出法

3 調査時期

平成17年11月～12月

4 調査方法

郵送留置訪問回収法

（回収は、対象者自身が回収用封筒に記入済みの調査票を密封したものを、調査員が回収した。また、対象者本人が希望した場合には、郵送回収とした。）

5 回収結果

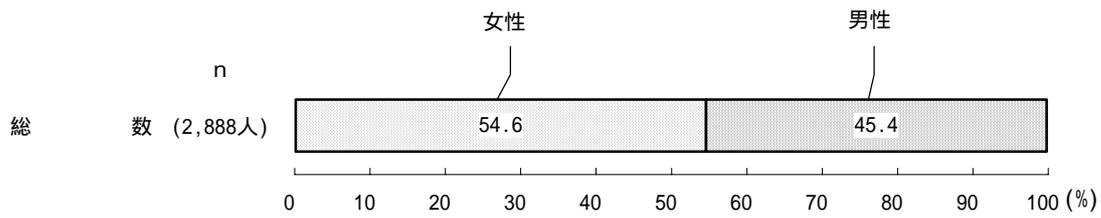
- (1) 有効回収数（率） 2,888人（64.2%）
（内訳） 女性1,578人 男性1,310人
- (2) 回収不能数（率） 1,612人（35.8%）

回収不能理由内訳

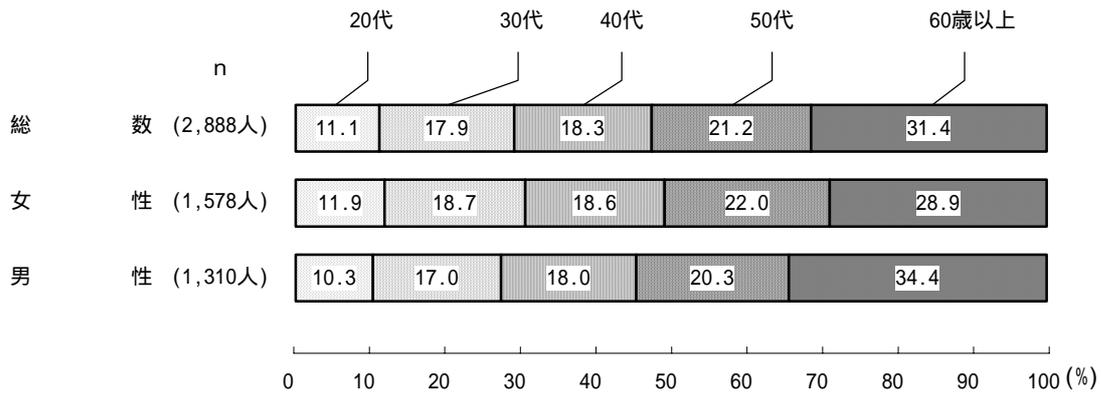
転居	152(3.4%)	調査票不達	15(0.3%)
長期不在	99(2.2%)	郵送依頼未回収	114(2.5%)
一時不在	303(6.7%)	白票	110(2.4%)
住所不明	50(1.1%)	その他	115(2.6%)
拒否	654(14.5%)		

6 回答者の属性

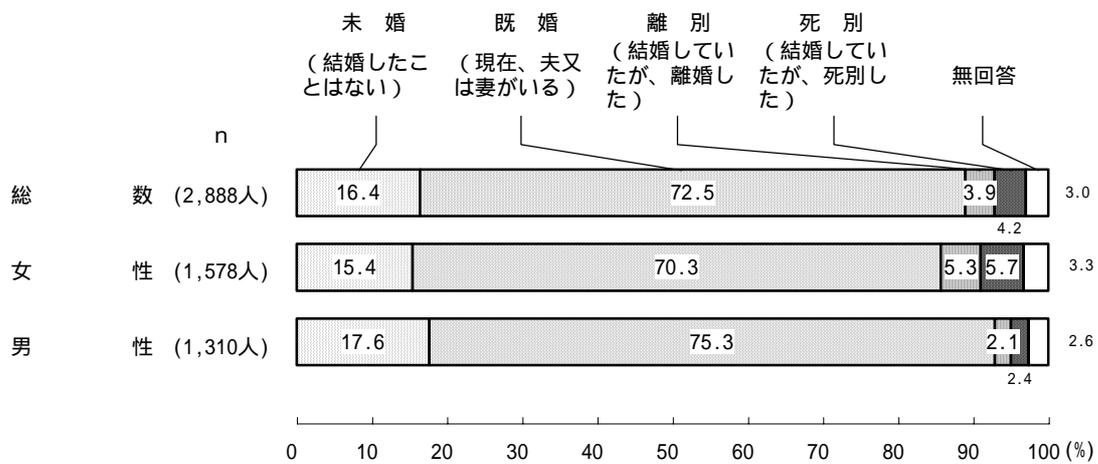
(1) 性別



(2) 年齢



(3) 未既婚



配偶者からの被害経験

1 これまでの被害

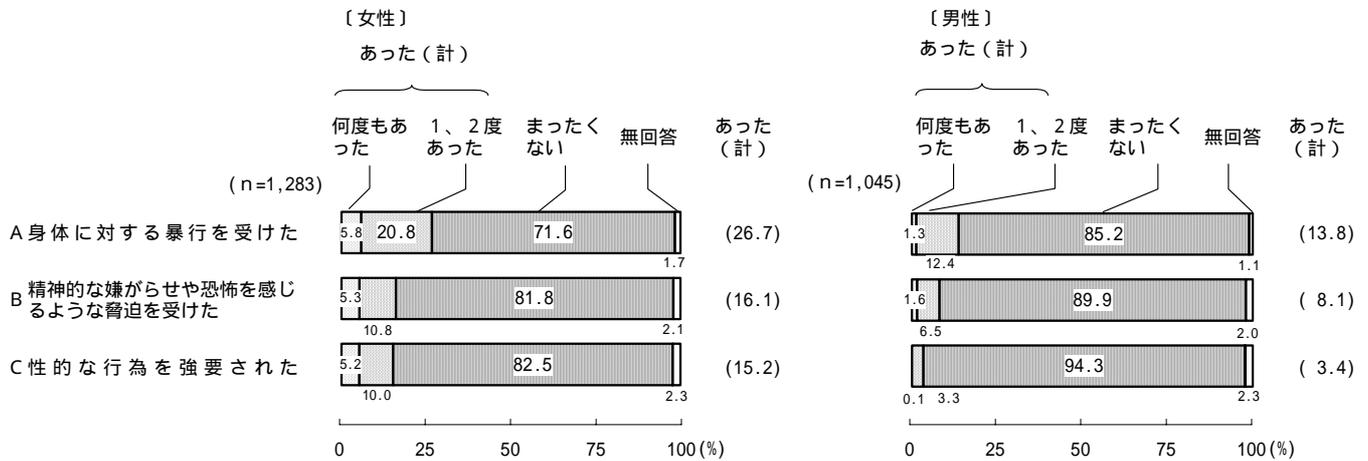
これまでに結婚したことのある人（女性 1,283 人、男性 1,045 人）に、3つの行為をあげて、配偶者から受けたことがあるかを聞いた。なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含む。

これまでに、“なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた”ことが『あった』人は女性 26.7%、男性 13.8%である。

“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが『あった』人は女性 16.1%、男性 8.1%である。

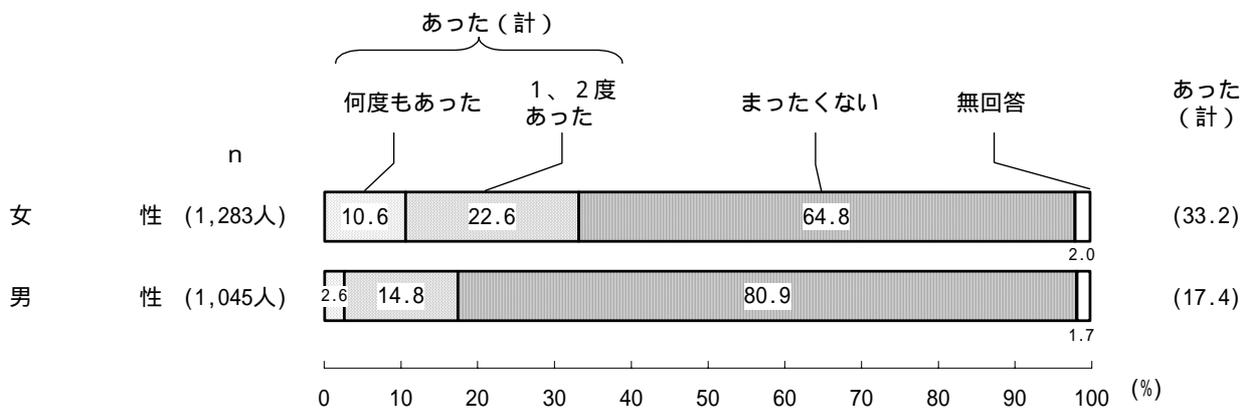
“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが『あった』人は、女性 15.2%、男性 3.4%である。

図1 配偶者からの被害経験



配偶者からの被害経験をまとめてみると、“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかを1つでも受けたことが『何どもあった』という人は、女性 10.6%、男性 2.6%となっている。

図2 配偶者からの被害経験 - 「いずれかの行為を1つでも受けたことがある」

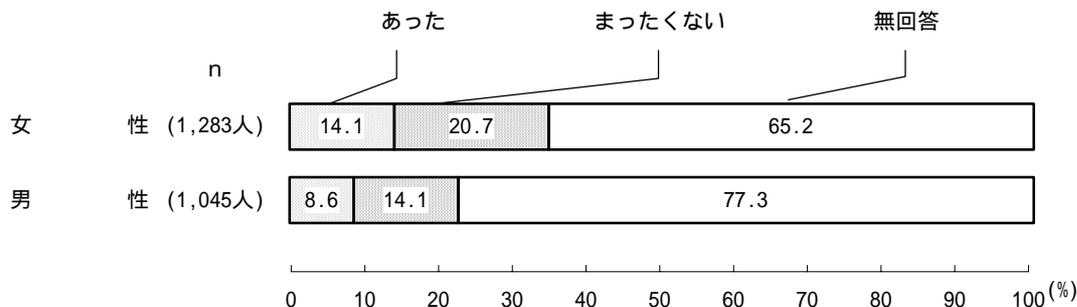


2 過去5年以内の被害

(1) 過去5年以内の被害

この5年以内に配偶者から何らかの被害を受けた経験の有無を、これまでに結婚したことのある人（女性1,283人、男性1,045人）でみると、女性では全体の14.1%が被害を受けたことが「あった」と答えているのに対して、男性では8.6%となっている。

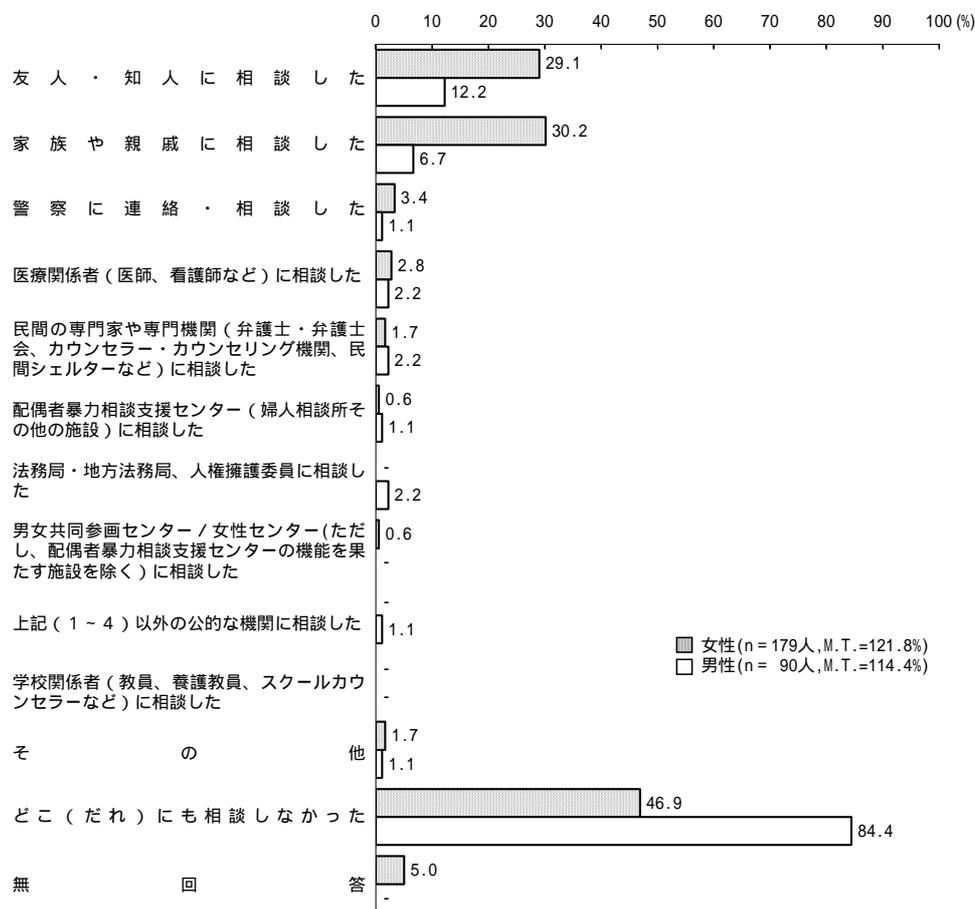
図3 配偶者からの被害経験
- 過去5年間・「いずれかの行為を1つでも受けたことがある」(全体ベース)



(2) 被害についての相談先

この5年以内に配偶者から何らかの被害を受けたことがあった人（女性179人、男性90人）に、受けた行為についての相談先を聞いたところ、「友人・知人に相談した」(女性29.1%、男性12.2%)と「家族や親戚に相談した」(同30.2%、6.7%)はいずれも女性で約3割となっているが、男性では1割前後となっている。それ以外の項目はいずれも1~3%程度である。

図4 配偶者からの被害の相談先

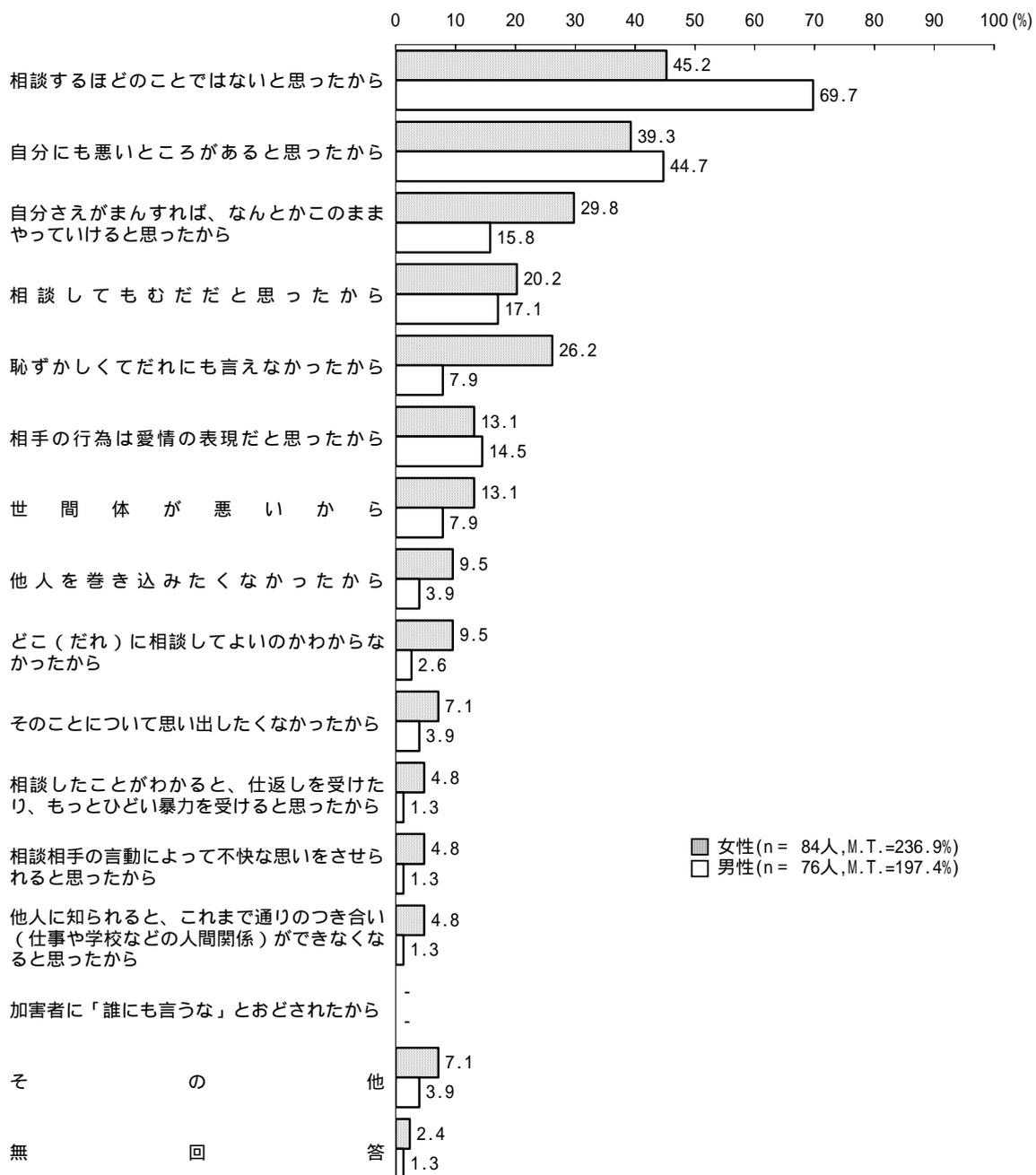


(3) 被害について相談しなかった理由

配偶者からの被害について、どこ(だれ)にも相談しなかった人(女性84人、男性76人)が、相談しない理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」(女性45.2%、男性69.7%)は、男性で7割があげており、また、「自分にも悪いところがあったから」(同39.3%、44.7%)も女性より男性に多くあげられている。

一方、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(同29.8%、15.8%)と「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(同26.2%、7.9%)は、女性ではほぼ3割があげており、男性よりも多くなっている。

図5 相談しなかった理由

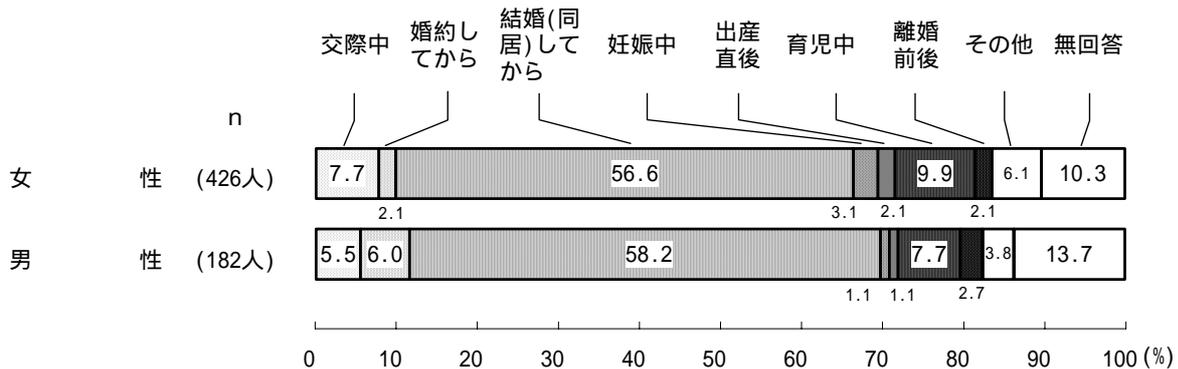


3 最初の被害

(1) 最初の被害時期

これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人（女性 426 人、男性 182 人）に、その行為を初めて受けた時期を聞いたところ、「結婚（同居）してから」という人が女性 56.6%、男性 58.2%で最も多く、以下「育児中」（女性 9.9%、男性 7.7%）、「交際中」（同 7.7%、5.5%）となっている。また、女性の 3.1%は、「妊娠中」と答えている。

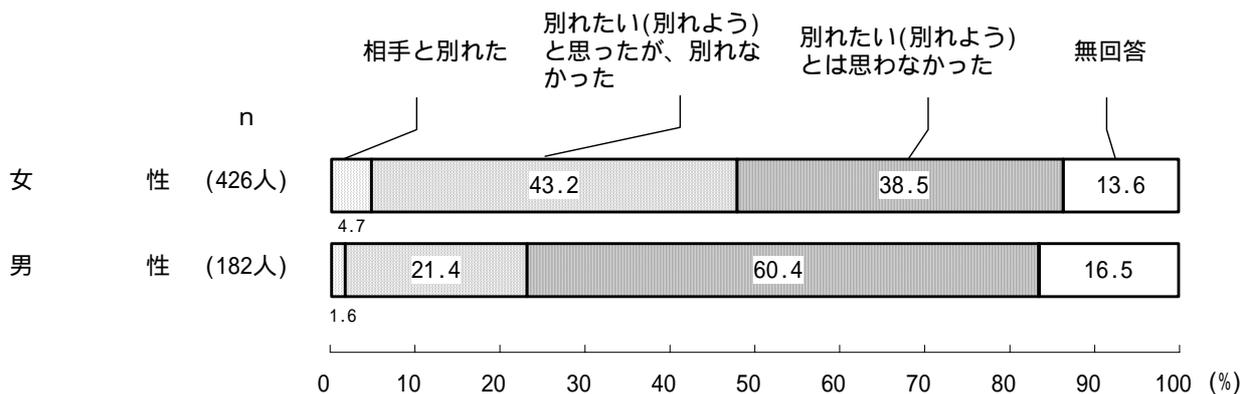
図6 最初に被害を受けた時期



(2) 被害を受けた後の関係

これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人（女性 426 人、男性 182 人）に、その行為を初めて受けたころ、相手との関係をどうしたのかを聞いたところ、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」（女性 43.2%、男性 21.4%）という人は男性より女性に、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」（同 38.5%、60.4%）という人は女性より男性にそれぞれ多くなっている。

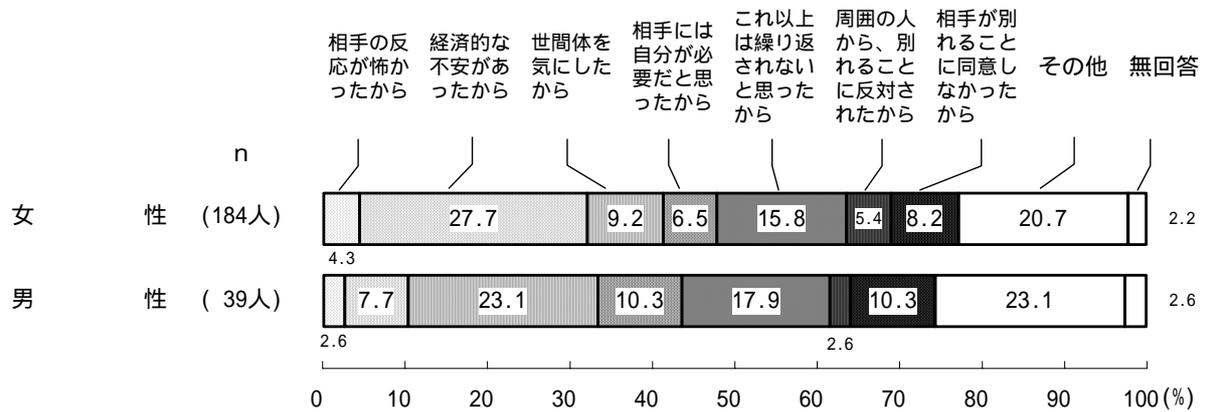
図7 配偶者から被害を受けた後の関係



(3) 別れなかった理由

配偶者から何らかの被害を初めて受けたころ、相手と「別れたい(別れよう)」と思ったが、別れなかった人(女性 184 人、男性 39 人)に別れなかった最も大きな理由を聞いたところ、女性では「経済的な不安があったから」(27.7%)が3割弱で最も多くなっているのに対して、該当数は50人に満たないが男性では、「世間体を気にしたから」という人が39人中9人と最も多くなっている。

図8 別れなかった理由



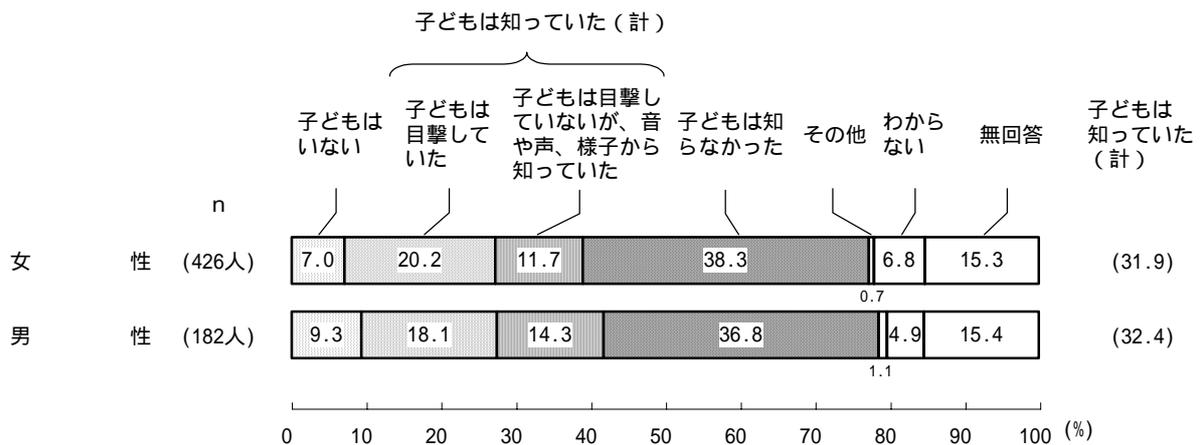
4 子どもによる目撃

(1) 子どもによる目撃

これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人（女性 426 人、男性 182 人）に、そのような行為を受けていることを子どもが 18 歳未満の時期に知っていたかどうかについて聞いたところ、「子どもは知らなかった」（女性 38.3%、男性 36.8%）という人が 4 割弱で最も多い。

「子どもは目撃していた」という人は 2 割で、「子どもは目撃していないが、音や声、様子から知っていた」という人を合わせると、ほぼ 3 人に 1 人は、配偶者からの行為を『子どもは知っていた』と答えている。

図9 子どもによる目撃

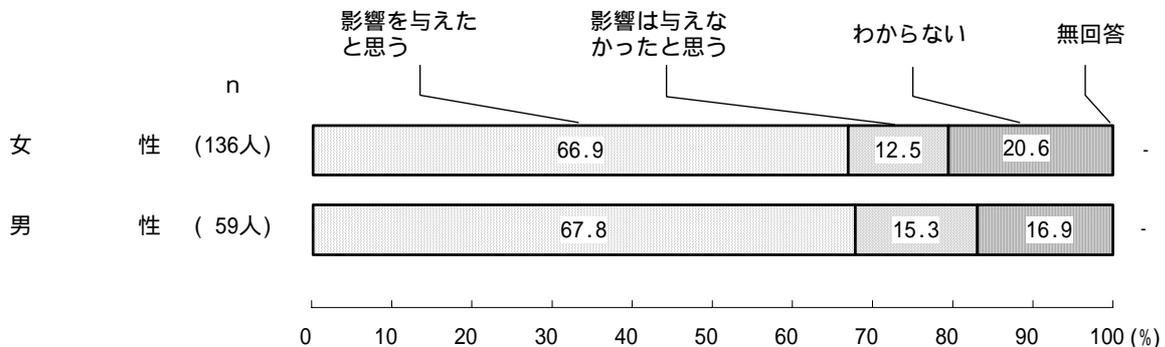


(2) 子どもへの影響

配偶者から何らかの被害を受けていたことを子どもが 18 歳未満の時期に『知っていた』という人（女性 136 人、男性 59 人）に、その影響を聞いたところ、子どもの心身に「影響を与えたと思う」という人が 7 割近くを占める。

これに対して、「影響は与えなかったと思う」という人は 1 割強である。

図10 子どもへの影響



交際相手からの被害経験

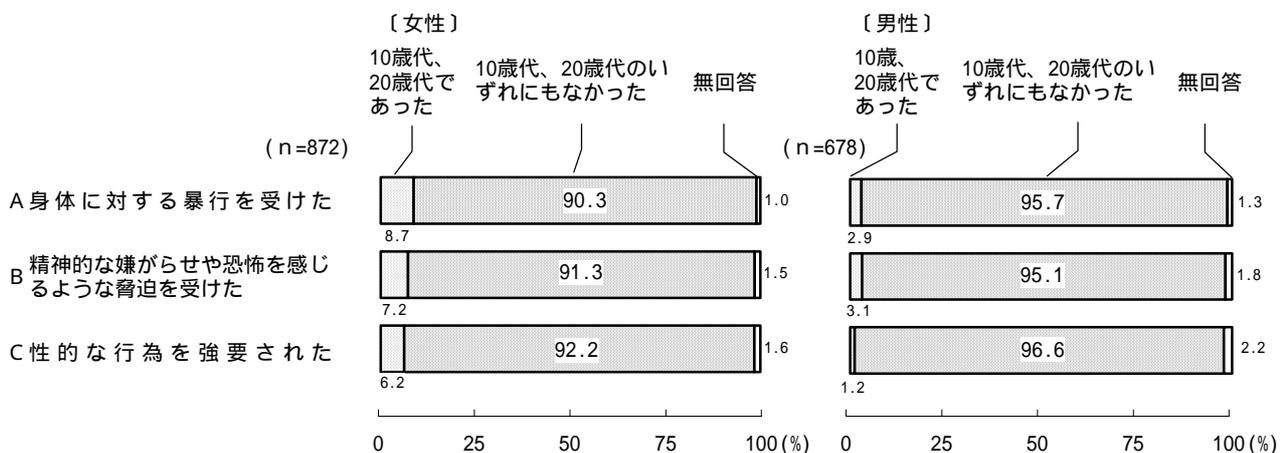
1 10歳代から20歳代のときの被害

10歳代から20歳代の結婚前に、「交際相手（後に配偶者となった相手以外）がいた（いる）」という人（女性872人、男性678人）に、3つの行為をあげて、交際相手から受けたことがあるかを聞いた。10歳代から20歳代のときの交際相手からの被害経験の有無をまとめてみると、“なくったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた”ことが10歳代または20歳代に「あった」という人は女性8.7%、男性2.9%である。

“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが「あった」という人は女性7.2%、男性3.1%である。

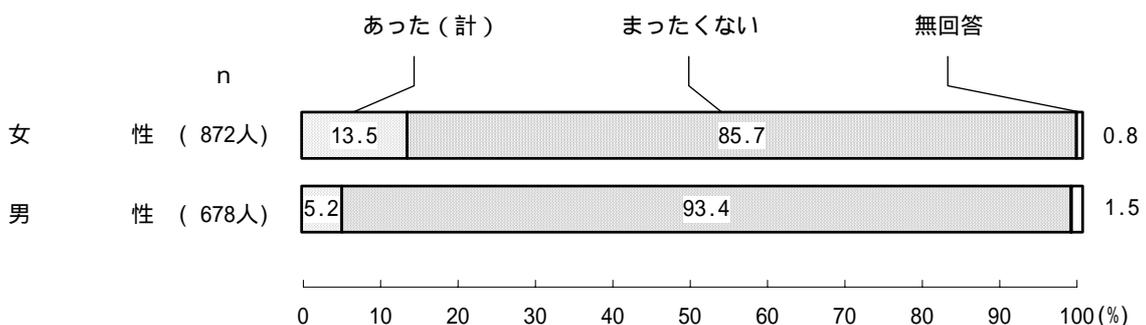
さらに、これまでに“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが「あった」という人は女性6.2%、男性1.2%である。

図11 交際相手からの被害経験



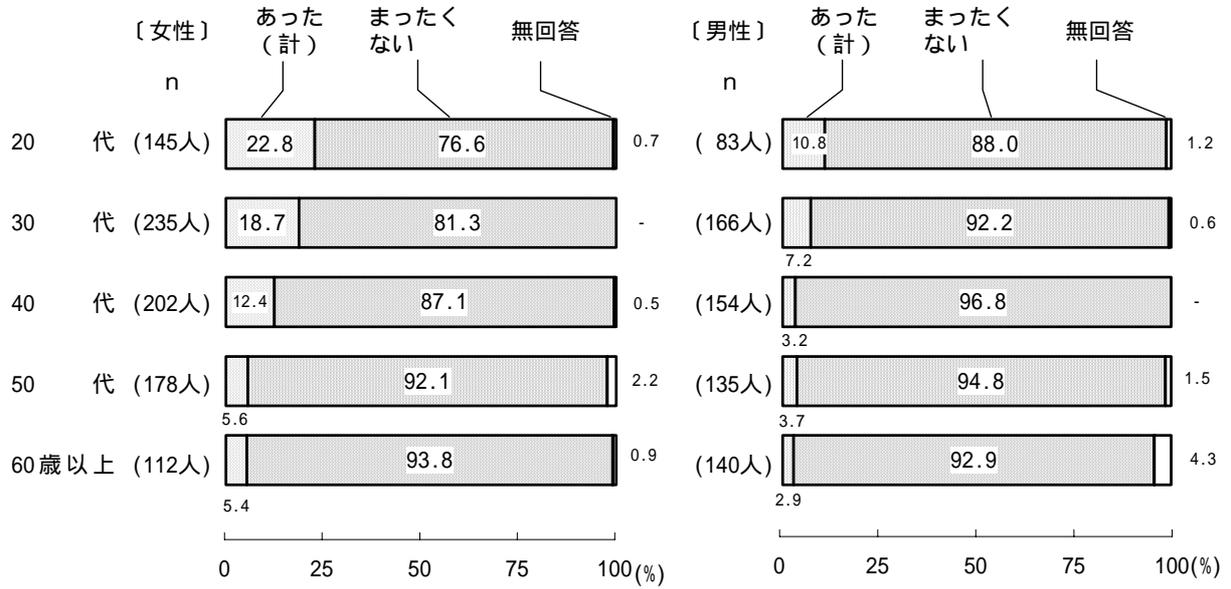
10歳代から20歳代のときの交際相手から“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかをされたことが「あった」という人は女性13.5%、男性5.2%となっている。

図12 交際相手からの被害経験
- 10歳代、20歳代で「いずれかの行為を1つでも受けたことがある」



さらに、性・年齢別に被害経験の有無をみると、男女とも若年齢層ほど被害経験のある人が多い傾向があるが、特に女性の20代（22.8%）から30代（18.7%）では2割前後が『あった』と答えている。

図 13 交際相手からの被害経験
 - 10 歳代、20 歳代で「いずれかの行為を1つでも受けたことがある」(性・年齢別)

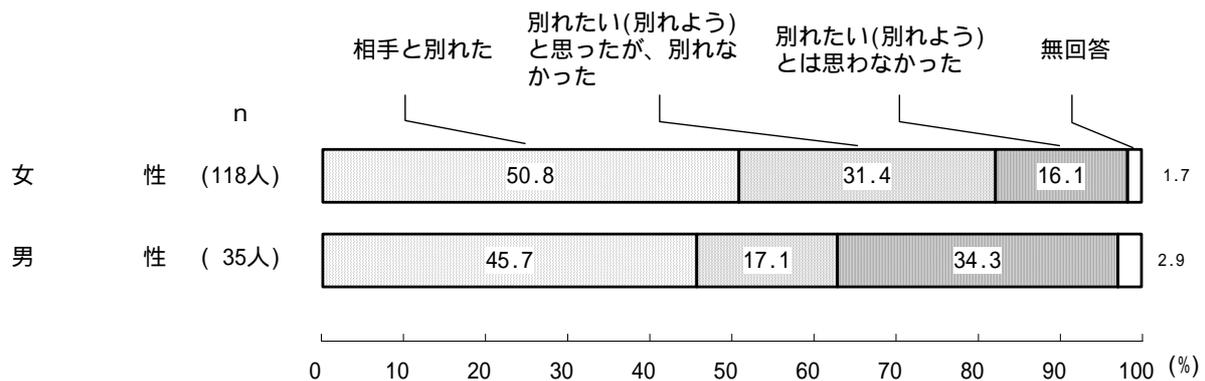


2 被害を受けた後の関係

(1) 被害を受けた後の関係

10歳代から20歳代の結婚前に、交際相手から被害を受けたことがある人(女性118人、男性35人)に、その行為を受けたとき、相手との関係をどうしたのかを聞いたところ、女性では「相手と別れた」(50.8%)という人が半数を占め、次いで「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」(31.4%)が多くなっている。一方、該当数は50人に満たないが男性では、「相手と別れた」(16人)に次いで、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」(12人)が多くなっている。

図14 交際相手から被害を受けた後の関係



(2) 別れなかった理由

交際相手から何らかの被害を受けたとき、相手と「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」人(女性37人、男性6人)に別れなかった最も大きな理由を聞いたところ、「相手が別れることに同意しなかったから」という人が女性では37人中13人で最も多く、次いで「これ以上は繰り返されないと思ったから」が6人、「相手には自分が必要だと思ったから」が5人、「相手の反応が怖かったから」が4人の順となっている。

表15 別れなかった理由

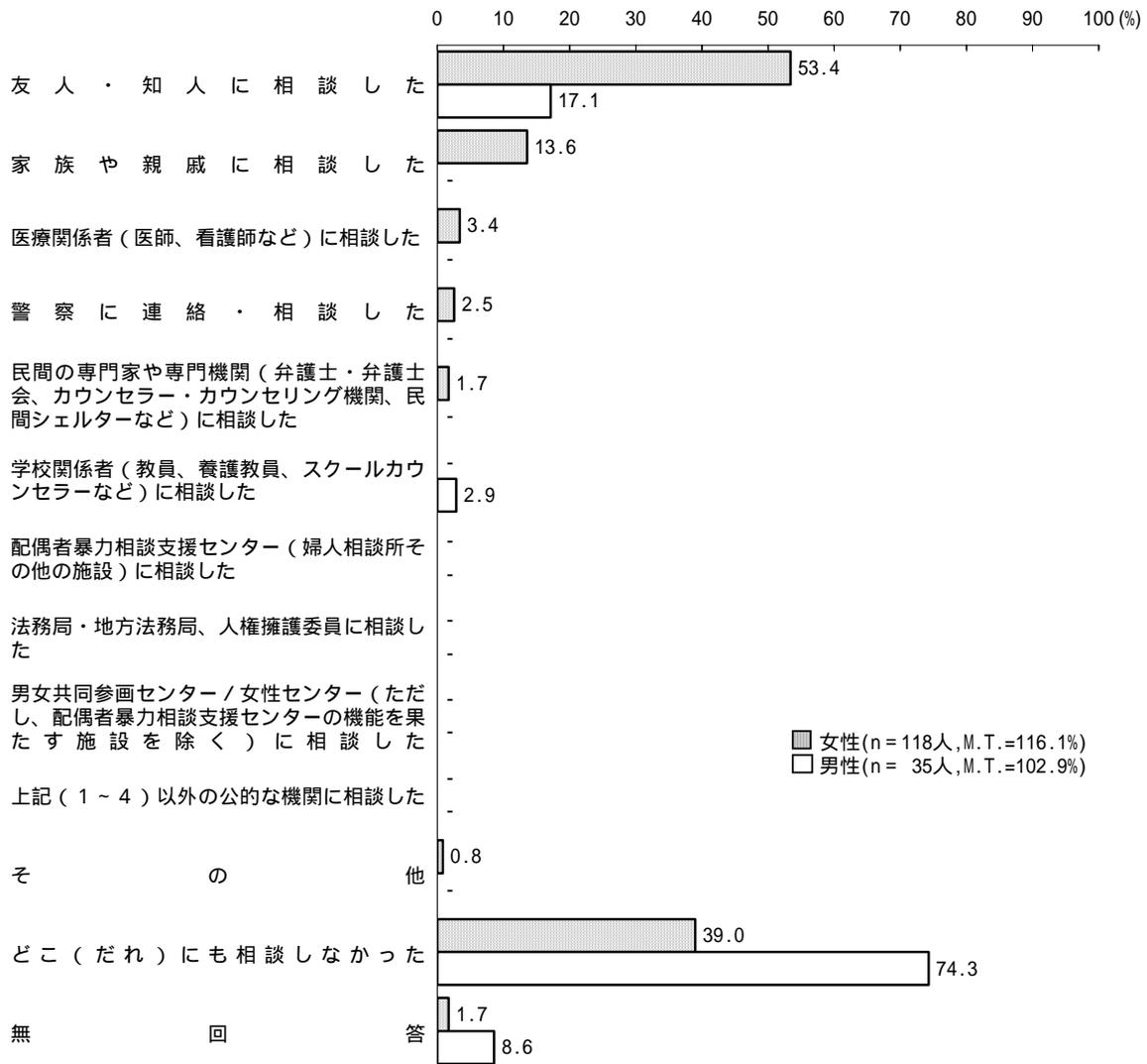
	n	か と 相 手 が 別 れ る こ に 同 意 し な か ら	か 必 要 だ と 思 っ た が	思 っ た か ら こ れ 以 上 は 繰 り 返 ら な い	か 相 手 の 反 応 が 怖 い	あ 経 済 的 な 不 安 が	別 れ た こ と に 反 対 さ れ た か ら	た 世 間 体 を 気 に し な か ら	そ の 他	無 回 答
女性	37	13	5	6	4	2	1	-	5	1
男性	6	1	2	1	-	1	-	-	1	-

3 被害についての相談先

(1) 被害についての相談先

10歳代から20歳代の結婚前に、交際相手から被害を受けたことがある人（女性118人、男性35人）に、受けた行為についての相談先を聞いたところ、「友人・知人に相談した」が女性では53.4%と過半数で、次いで「家族や親戚に相談した」が13.6%となっているほかは、いずれも1～3%程度である。「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人は、女性で39.0%となっている。

図 16 交際相手からの被害の相談先



(2) 被害について相談しなかった理由

10歳代から20歳代の結婚前の交際相手からの被害について、どこ(だれ)にも相談しなかった人(女性46人、男性26人)が、相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多くあげられ、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が多くなっている。

表 17 相談しなかった理由

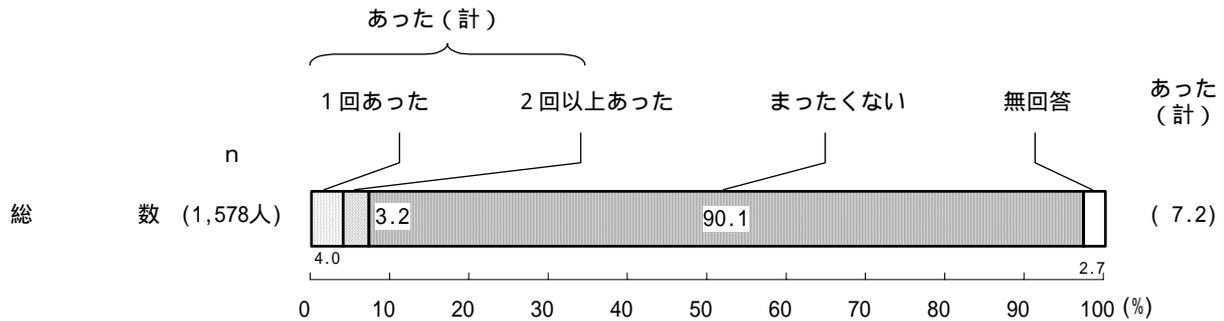
	n	相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	相談してもむだだと思ったから	そのことについて思い出しにくかったから	どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから	他人を巻き込みたくなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	世間体が悪いから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	他人に知られると、これまで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	その他	無回答	回答計
女性	46	17	13	6	9	5	6	6	3	4	2	2	2	2	-	3	1	81
男性	26	16	12	8	4	7	3	2	5	2	1	-	-	-	-	1	1	62

異性から無理やりに性交された経験（女性のみ）

1 これまでの被害

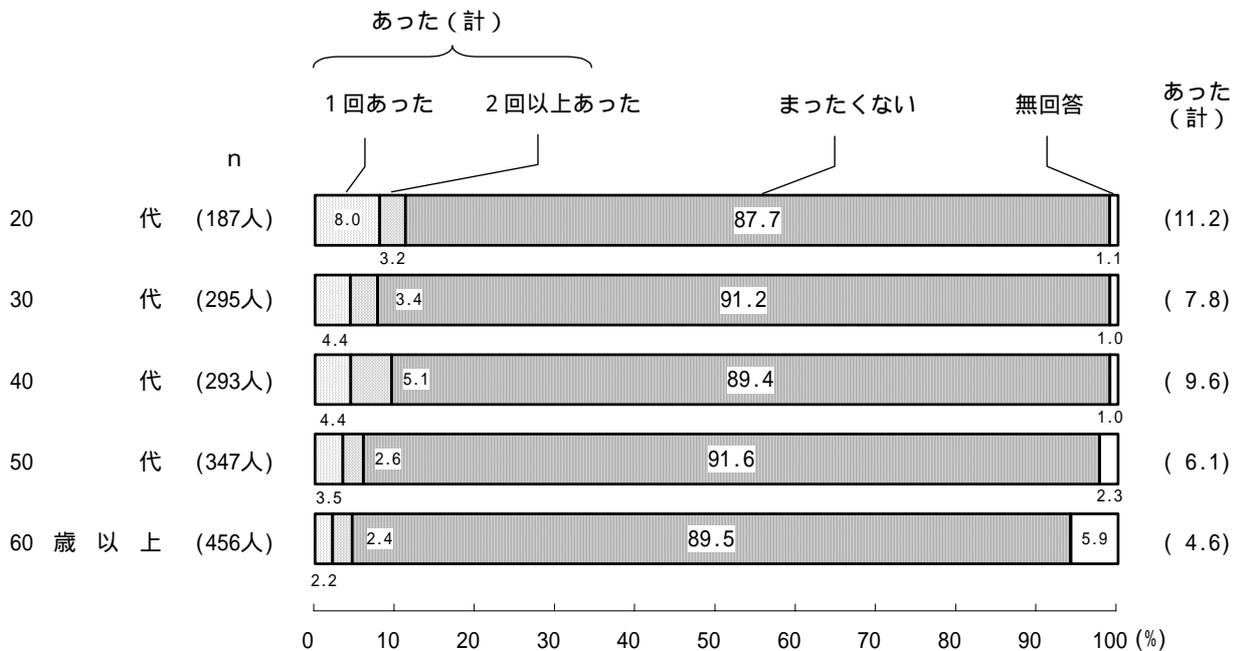
女性（1,578人）に、これまでに異性から無理やりに性交された経験を聞いたところ、「1回あった」という人が4.0%、「2回以上あった」人が3.2%で、被害経験のある人は7.2%である。

図18 被害経験の有無



年齢別にみると、異性から無理やりに性交されたことが『あった』人は20代で11.2%と最も多く、約1割となっている。

図19 被害経験の有無（年齢別）



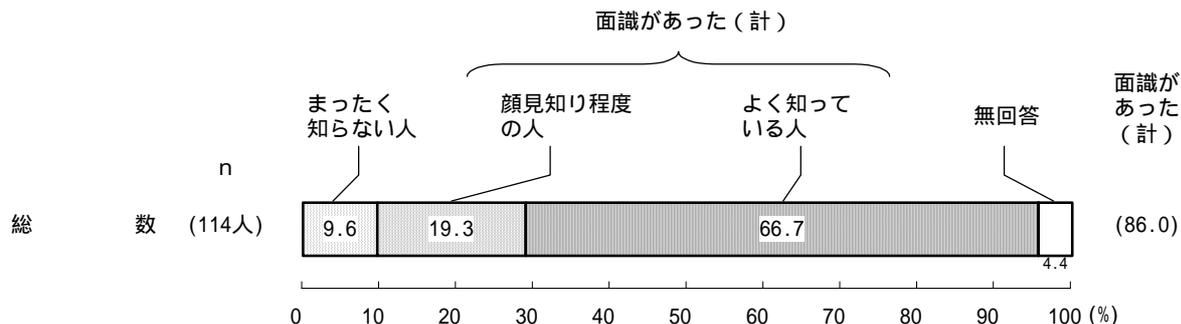
2 加害者との関係

(1) 加害者との面識

異性から無理やりに性交されたことがあった人(114人)に、最も深く傷ついた経験について聞いた。

その出来事の加害者との面識の有無を聞いたところ、3人に2人は「よく知っている人」(66.7%)と答え、「顔見知り程度の人」(19.3%)という人は約2割で、『面識があった』人は9割近い。「まったく知らない人」(9.6%)という人は約1割である。

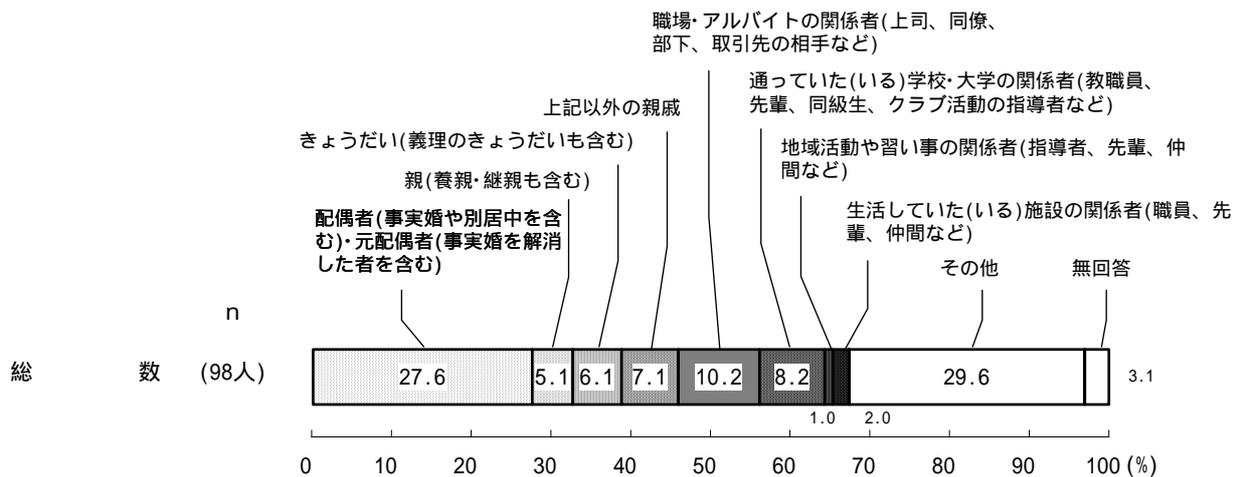
図20 加害者との面識の有無



(2) 加害者との関係

加害者と面識があった人(98人)に、加害者との関係を聞いたところ、「配偶者(事実婚や別居中を含む)・元配偶者(事実婚を解消した者を含む)」が27.6%で最も多く、以下「職場・アルバイトの関係者(上司、同僚、部下、取引先の相手など)」(10.2%)、「通っていた(いる)学校・大学の関係者(教職員、先輩、同級生、クラブ活動の指導者など)」(8.2%)などが続いている。

図21 加害者との関係



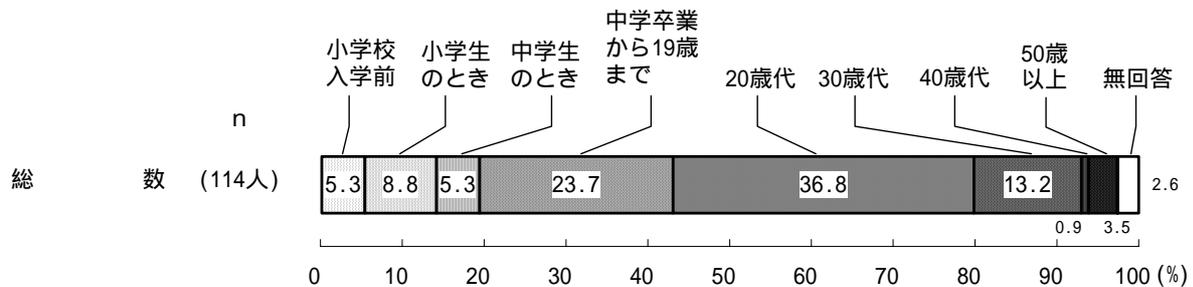
3 被害にあった時期

異性から無理やりに性交されたことがあった人（114人）が被害にあった時期としては、「20歳代」が36.8%で最も多く、次いで「中学卒業から19歳まで」（23.7%）が2割強である。

「小学生のとき」（8.8%）、「小学校入学前」（5.3%）、「中学生のとき」（5.3%）など低年齢で被害を受けている人も2割程度いる。

19歳までに被害を受けた人は4割強で、約8割が20歳代までに被害を受けている。

図22 被害にあった時期



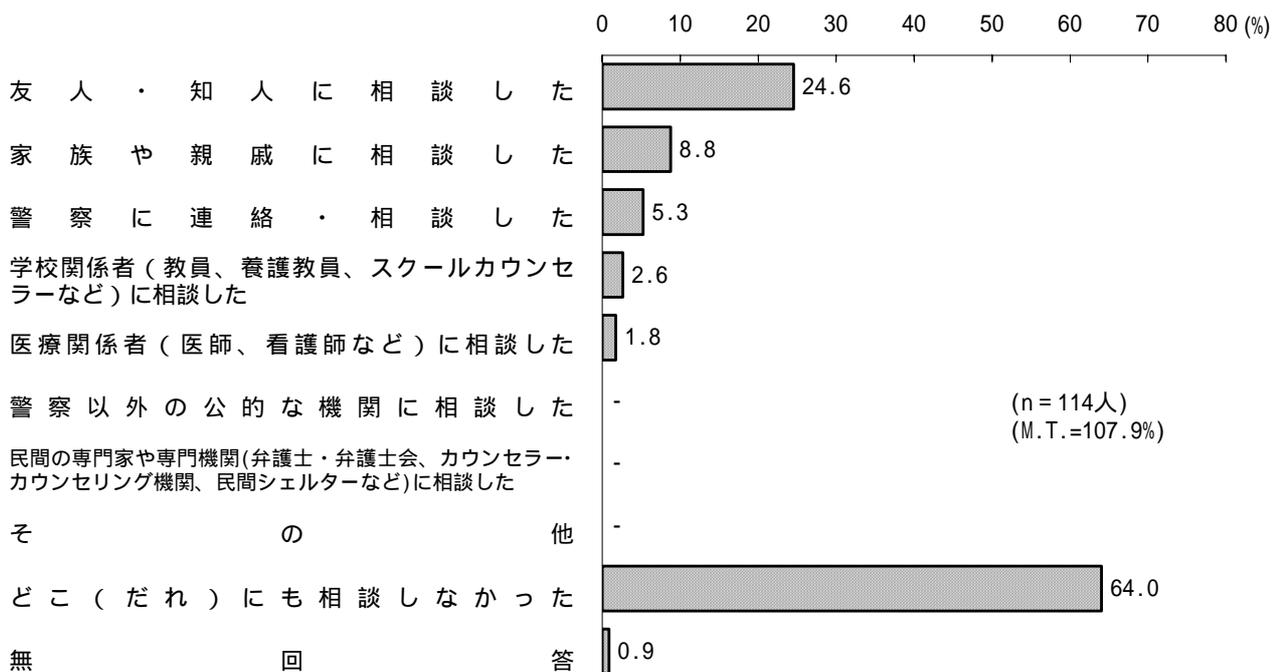
4 被害についての相談先

(1) 被害についての相談先

異性から無理やりに性交されたことがあった人（114人）の被害についての相談先としては、「友人・知人に相談した」が24.6%で最も多くあげられ、次いで「家族や親戚に相談した」（8.8%）が1割弱である。

これに対して、6割を上回る人は「どこ（だれ）にも相談しなかった」（64.0%）と答えている。

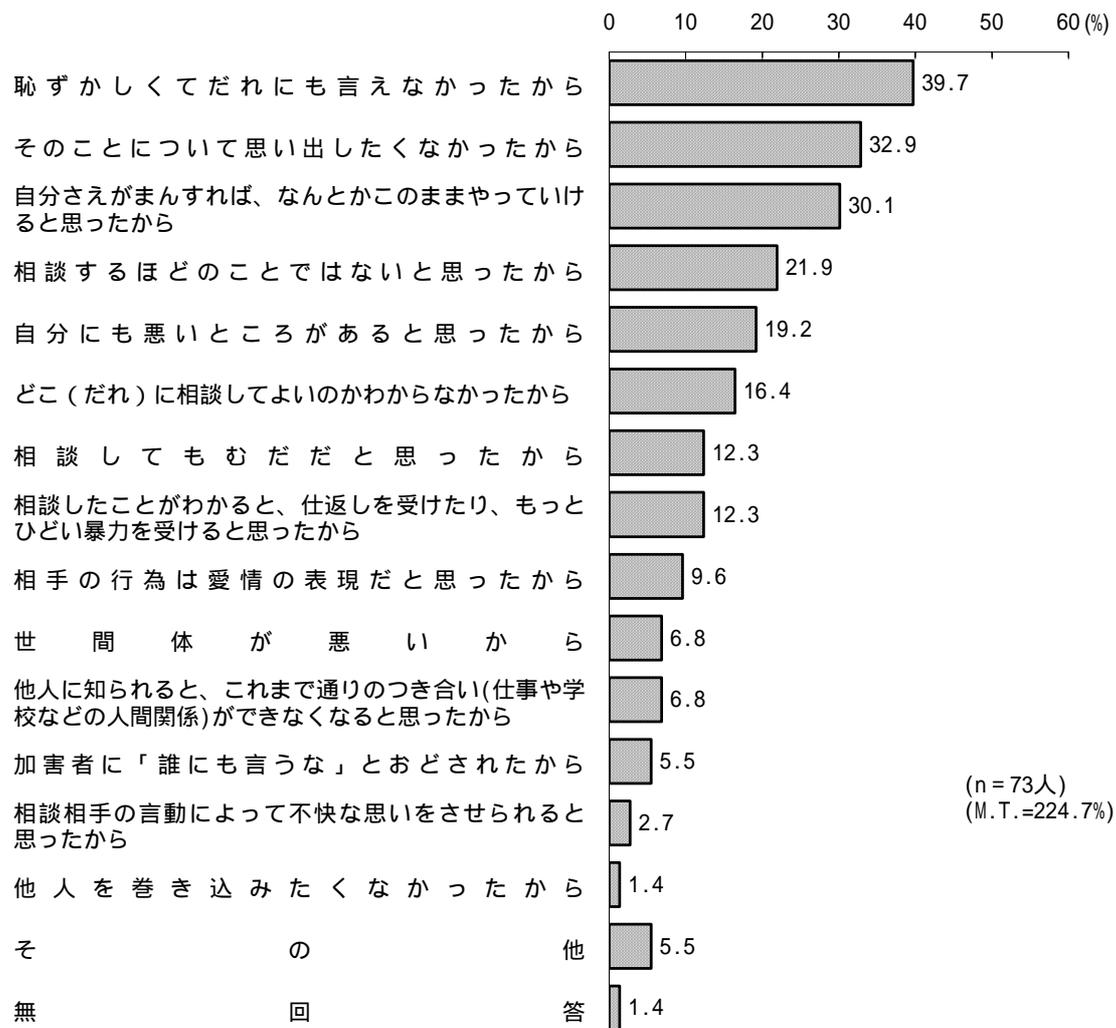
図23 被害の相談先



(2) 被害について相談しなかった理由

被害について、どこ(だれ)にも相談しなかった人(73人)が相談しなかった理由としては、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が39.7%で最も多くあげられ、次いで「そのことについて思い出したくなかったから」(32.9%)と「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(30.1%)が3割台となっている。

図 24 相談しなかった理由



男女間の暴力を防止するために必要なこと

男女間の暴力を防止するために必要だと考えることを聞いたところ、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が約7割で最も多くあげられ、以下「学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」、「加害者への罰則を強化する」の順となっている。

「暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる」(女性56.4%、男性50.5%)と「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」(同53.9%、44.6%)は男性より女性に多くあげられている。

図 25 男女間の暴力を防止するために必要なこと

